



みどりの風

令和4年9月1日発行
校報 599号
(みどりの風 142号)
練馬区立関町北小学校

いじめ防止の取り組みをさらに一歩進める

～予防的な視点に基づくいじめアンケートの実施及びいじめ対策サポートチームの結成～ 校長 吉川文章

「子供たちの溢れる笑顔に元気をもらう」待ちに待った新学期がスタートしました。今学期の教育活動にも引き続きご理解、ご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。今号は表題の内容についてお伝えをいたします。

いじめ問題が発生した際「学校の隠蔽体質」がよく取りざたされます。校長や教育委員会が、マスコミからの質問に遭い答えに窮する場面の映像が流れたり、いじめを否定した学校に実はいじめがあったと報道され批判の対象となる場面を見かけたりすることはまれではありません。その印象が強く、あたかも全ての学校が隠蔽体質をもっているかのごとく語られてしまうのです。

私は多くの学校が、真摯に向かい合い適切な対応をしていると考えています。しかしながら、プライバシーの壁があり情報が内部にとどまってしまうため、不安が増幅したり噂が一人歩きしたりするのです。特に、近年は「SNSの急激な広がり」により、その傾向に拍車がかかっていると懸念をしています。

本校は、「いじめ防止に関する基本指針」を作成すると共に校内組織に対策委員会を位置付けいじめ問題への対応に取り組んでいます。6月の「ふれあい月間」では、「いじめをしてしまった児童の苦しみ」をテーマに校長講話を行いました。今後、さらに踏み込んだ以下の取り組み（昨年度8月に次年度構想として同趣旨の内容をホームページに掲載）を短期的中期的に進めてまいります。

一つ目は、「予防的な視点に基づくいじめアンケート」の取り組みです。

9月から毎月の実施をしていきます。4, 5, 6年生のアンケート内容に以下の予防的な視点（答えながら自分の行動をふり返る形式）を加えます。

① より具体的な内容を加えます

「話をしたり近くを通ったりしたとき、周りが何となく聞こえないふりをしたり避けたりする」案外、このような行動をいじめとは感じていない子供は少なくありません。ふだんの生活をより具体的に振り返ることで、いじめへの抑止力が働くという効果が期待されます。

② メールやSNSに関する項目を追加します

「メールやSNSで、悪口を書いたり、他の人の悪口を読んだりしたことがある」この項目を入れることで、ネットでのいじめが大きく減少したという学校の例があります。

③ 被害を受けた視点だけではなく加害をした傍観をしたという視点を加えます

「友達がいやなことをされている時一緒にしたことがある、見たのに見ないふりをしたことがある」いじめは加担することはもちろん、見て見ぬふりをすることも絶対にいけないことを毎月振り返る機会を設けます。

二つ目は、「いじめ防止対策サポートチーム（仮称）」の発足です。校内だけではなく、外部機関の方々とチームを作り、より手厚いいじめ問題への対応を図っていきます。

○組織構成： 【校内】校長、副校長、生活指導主任、いじめ防止担当教員、養護教諭、スクールカウンセラー
【外部】保護司、主任児童委員、在校生の保護者、卒業生の保護者など（外部委員は匿名）

○取り組み事項： いじめ問題への対応の年間計画の周知、取り組みへの評価
いじめ防止の取り組みや調査の結果についての共有
深刻ないじめ発生時の協議、事実関係の聴取への立ち会い、チームによる対応
関係児童への心のケアに関する関係機関との接続 など

※コロナ禍ですので、収束の状況も踏まえながら来年度目途のチームの発足を検討しています。

アンケートの結果をまとめて、学校の具体的な取り組みとともに積極的に発信することも重要と考えています。この問題を解決する基盤は、ふだんからの学校と保護者の信頼関係の構築であるからです。いじめ防止の具体的な取り組みを知っていただくことは、学校の信頼を高めることにもつながると考えています。

今後も「いじめ防止」の取り組みについては、機会あるごとにお伝えしてまいります。